

ものづくり人材育成やまがた便り

山形のものづくり人材育成について

山形大学 国際事業化研究センター長
小野寺 忠司



国際事業化研究センターとは

去年4月から、国際事業化研究センターに配属になりました。

国際事業化研究センターは山形大学6学部を横断的に支援するセンターであり、学部間の共同研究・連携強化を促進し、山形大学ならではのイノベーション創出に向けた活動を実施しています。

当センターの事業内容は大きく分けて以下の4つです。

1. 技術シーズの発掘・育成及び事業化の推進です。魅力的な技術シーズ、社会課題解決のためソリューションを発掘し、研究育成に必要な多方面の支援を実施しています。また大学発ベンチャー創出や企業への技術移転等の事業化支援を行います。
2. 経営研究と地域の人材育成・活用です。多様化する時代に新たな価値を生み出す経営研究とシニアインストラクターを派遣し、経営・現場改善による収益体質改善を実施し、地域企業の価値向上をはかります。
3. 研究企画部門は企業との共同研究・受託研究を促進、外部資金調達、研究育成に必要な多方面支援を行います。
4. 知的財産部門は学内研究者の特許取得、企業と連携する際の契約等、様々な支援を提供しています。

次世代アントレプレナー育成事業の推進

国際事業化研究センターのミッションの一つである事業化実現に向けて、次世代アントレプレナー育成事業(EDGE-NEXT)を推進しています。このプログラムの特徴は、経験豊富な外部講師を招き「実践的な起業家精神」を持った人材を育てることです。プログラムを通して、挑戦的でリスクを恐れずにチャレンジする精神、そして独創的なアイデアを持ち、目標に向けて積極的に実行できる人材を育てていきたいと考えています。さらに、シニアインストラクター事業との連携も模索していきます。

企業収益改善で山形の底上げを

山形大学では、7年前にシニア(上級)インストラクター養成講座を立ち上げ、前年度までに科学的・工学的なアプローチで捉える視点とスキルを身につけた114名の修了生を送り出し、ものづくり人材育成に取り組んできました。このうち企業OB約20名のシニアインストラクターが、希望する山形県内企業のものづくりカイゼン指導に挑み、収益改善で山形県内企業の底上げをはかり実績をあげています。

世界をリードする地域・大学を目指して事業を進めて参りますので、ご支援ご協力の程、宜しくお願い致します。

企業訪問記

～ 株式会社シェルター ～

(株式会社シェルター <http://www.shelter.jp/>)

木村 一義代表取締役



このたび訪問させていただいた、株式会社シェルター（代表取締役 木村 一義、従業員112名）は、1974(昭和49)年に「超一流の住まいづくり」を目指し、寒河江市にシェルターホーム株式会社を創立した。木造建築の強度の要である柱や梁、基礎と柱を緊結する接合金物工法「KES構法」を日本で最初に開発し、特許取得・実用化してハイグレードな注文住宅をつくり続けてきた。阪神淡路・東日本大震災で実証された強靱さから、イメージをそのままカタチにできる注文住宅はShelter-designとしてブランド化されている。1997年に山形市に本社を移転し商号を株式会社シェルターに変更した。大規模木造建築の構造設計・計算、構造体製造・販売、建方・木工事に進出した。公共建築物へのKES構法の採用実績は1,000棟を超え、全国各地に広がっている。2010年「公共建築物等木材利用促進法」により、木造建築への関心が高まってきた。2015年には同社が開発した木質耐火部材「COOL WOOD」を使用した山形県南陽市文化会館が竣工、「最大の木造コンサートホール」としてギネス世界記録に認定された。一流ミュージシャンが絶賛する音響や、外の温度・湿度に左右されない快適空間、それに伴う格段の省エネ効果など、木造の驚異的性能が実証された。「シェルターなんようホール」として命名権を取得、大規模・高層・耐火技術を発信している。

(1) 会社の経営理念・社内活動・フィロソフィー

経営理念は「何が正しいかを考える」であり、経営基本方針は、「創造・革新・挑戦」である。また、人間力の向上を重視したユニークな社内活動に取り組んでいる。CIA活動(継続的改善活動で、業務の改善内容により表彰する)、GA活動(良い活動を行った社員を推薦し、表彰する)、クリーンデー(毎月1日は朝7時30分～8時30分まで、全社員で社内外の清掃や花壇の手入れを実施する)などの活動である。フィロソフィーについては、3つ掲げられている。

①私たちは、「超一流の住まいづくり」の創業精神にのっとり、人生の原点である住宅の質を、北米・ヨーロッパを凌ぐ水準まで向上させ、「シェルター」を人生のステータス、建築のブランドにし、クライアントに喜びと感動を提供します。

②私たちは、接合金物構法と木質耐火部材を開発したパイオニア企業としての誇りを持ち、人間力とスキルをたかめ、木構造技術世界No.1を達成し、都市(まち)に森をつくる「木造都市」を実現します。

③私たちは、現状に甘んじることなく、あくなき研究・開発により、他にないもの・できないものを創造して新しい社会価値をつくり、変動する社会とお客様の欲求を見極め、我社を革新し、社業

の発展を通じて世の生成発展に貢献します。

(2) 社内の人材育成

社内の社員教育は、新入社員研修(新入社員研修、OJT、フォローアップ研修)、中堅社員研修、各種勉強会(フィロソフィーと実務の勉強会、木鶏会、新入社員中心の読書会など)を実施している。

(3) 外部での人材育成

新入社員研修、機構開催の各種研修、各種セミナーなどを受講している。

(4) 資格制度(取得支援と有資格者数)

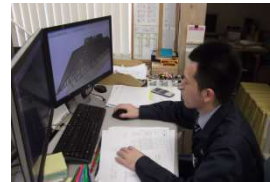
資格学校との提携、受講費用貸付、資格手当(一級建築士7万円、二級建築士4万5千円、宅建2万5千円)など充実した支援を実施している。現在の有資格者は、構造設計一級建築士2名、一級建築士15名、二級建築士19名、一級建築施工管理技士7名、宅地建物取引士5名となっている。

(5) 採用について

2018年度は、東京工業大大学院、宇都宮大大学院、山形大大学院、山形大、宮城大、中央大、芝浦工業大、東洋大、共立女子大、山形県職業能力開発専門校から各1名、東北工業大2名の合計12名の採用実績となっている。国際デザインコンペ開催や木造建築メーカーとしてのブランド力で学生に人気がある。

＝ 若手社員へのインタビュー ＝

入社3年目で地元村山市出身の笹原 孝太さんにお話を伺いました。



笹原 孝太さん

Q 入社の動機は

高校の時から建築に興味があり、シェルターは知っていました。大学で建築学科に入学し、木造建築を勉強して、更に興味が湧いたので入社しました。

Q 担当業務の内容と感じていることは

設計者が設計した図面を、CADで入力しながら、建物が作れるような設計構造に仕上げることをやっています。どうしても、設計変更が有る場合には、極力設計者の意図を汲みながら、変更を加えなければならないので、非常に気を遣います。

Q 現在の仕事はどうか

設計事務所の担当者との打合せなど大変なことが多いのですが、色々な人と接することで、色々な考え方が学べて、毎日が勉強です。

Q これからの目標は

シェルターは、木造園舎での採用数は全国No.1なので、自分も携わってみたいです。

Q 趣味はありますか

高校時代からやっている剣道を今もやっています。練習で汗をかいて、いいストレス解消です。

Q 最後に、大切にしている心構えは

設計事務所の方など目上の方と接する機会が多く、言葉使いやメールの文章など失礼の無い様に心掛けています。

最後に、会社の概要説明からインタビューまで対応いただいた、伊藤 相談役様、木村 エグゼクティブデザイナー様、菊地様そしてインタビューに対応いただいた笹原様に感謝申し上げます。

TOPICS

山形県成長分野担い手育成支援事業費補助金

山形県では、将来的に成長が見込まれる分野に関わるものづくり産業（戦略産業分野）への新たな事業展開又は取引拡大等を支援するため、県内企業が行う人材育成の取組み（専門的な知識や技術を習得するための社外研修受講や先進企業等への派遣研修など）に要する経費の一部を助成します。

ものづくり人材の育成や戦略産業分野への新たな展開、新規雇用の創出等に、是非、当事業を活用ください。

※ 戦略産業分野とは、将来的に成長が見込まれる、バイオテクノロジー関連、自動車・航空機関連、ロボット関連、環境・エネルギー関連、医療・福祉・健康関連、食品・農業関連に係る産業分野です。

■ 補助対象事業

補助対象者がその従業員に対し研修（OJT（職務を通じて行われる教育訓練））は除きます。）を受講させる事業

■ 補助対象経費

補助対象事業に係る従業員旅費（交通費、宿泊費）、講師謝金、講師旅費、受講料、教材費その他特に必要と認められる経費

■ 補助金の額

補助対象経費の8/10以内 / 1企業あたり80万円以内

■ 募集期間

随時募集。ただし、予算がなくなり次第終了します。

補助対象事業者等の詳細は以下のホームページをご覧ください。

アドレス：<http://www.pref.yamagata.jp/ou/shokokanko/110009/seityokensyu.html>

お問い合わせ窓口 山形県商工労働部雇用対策課 産業人材育成担当 工藤 ☎：023-630-2388

